



**福岡** 同の文化と伝統を育んできた博多・川端地区。その下川端東および下川端西地区における再開発事業が99年春に完成する。仏語と英語の「川岸」という名を与えられた「博多リパレイン」は、敷地内に博多座や福岡アジア美術館、商業施設、ホテル、庭



写真上から  
チョン、クワンホア（韓国）「千字橋」、  
橋 昇（日本）「PolyZeus」、  
サンガワ（フィリピン）「Engaging Echo」

園、親水空間までが組み込まれた都市型複合施設、人・情報・文化・伝統が交感する新しいランドマークである。数ある同施設の魅力の中でも、注目すべきはパブリックアートの導入だ。決定されたコンセプトは「アジア・ガーデン」。古来より現代に至るまで、海外と経済や文化の交流を綿々と続けている福岡を、アジアの文化や人が集う「庭」と見立てた。自然と人工と人間が混在する場である庭は、各国の文化や様式の発露であるというわけだ。アジア一帯から指名された作家は14人、作品数はオブジェを中心に計15。広い敷地の中に芸術家たちの渾身の力作が点在する。これだけのアート作品に一堂にお目にかかれるのは福岡市民のみならず幸運な出来事だ。ショッピング、観劇、宿泊、食事、等々。博多リパレインに足を運んだら、そこで出会うアートの刺激と高揚感にしばし浸ることをお薦めしたい。

博多リパレイン3月6日グランドオープン

# そこはアートの中に まちがある



写真左から  
ファン、ツェニン（中国）「東方の星」、  
チェ、ジョンホア（韓国）「住は住」、  
キム、ホンジュ（韓国）「無題」